

財政事情の公表

昭和57年度
一般会計予算

362億円はこうに

新病院の建設や公共下水道の整備など

市は、市民のみなさんに市の財政事情を理解していただくため、毎年、前期（10月から3月）、後期（4月から9月）に分けて、6月と12月に「富士市の財政」を公表しています。

今回は、昭和57年度予算と昭和56年度の財政状況（昭和56年10月1日から昭和57年3月31日までの期間）をお知らせします。

総額で3.6%の伸び

昭和57年度の当初予算は、一般会計362億3,000万円、特別会計93億8,152万円、公営企業会計90億2,607万円で、総額546億3,759万円です。

前年度の当初予算と比較すると、一般会計が15億6,000万円増で4.5%の伸びを、特別会計が18億493万円減で16.1%のマイナス、公営企業会計が21億5,591万円増で31.4%の伸びを示しています。

総額では、19億1,098万円増で、3.6%の伸びとなりました。

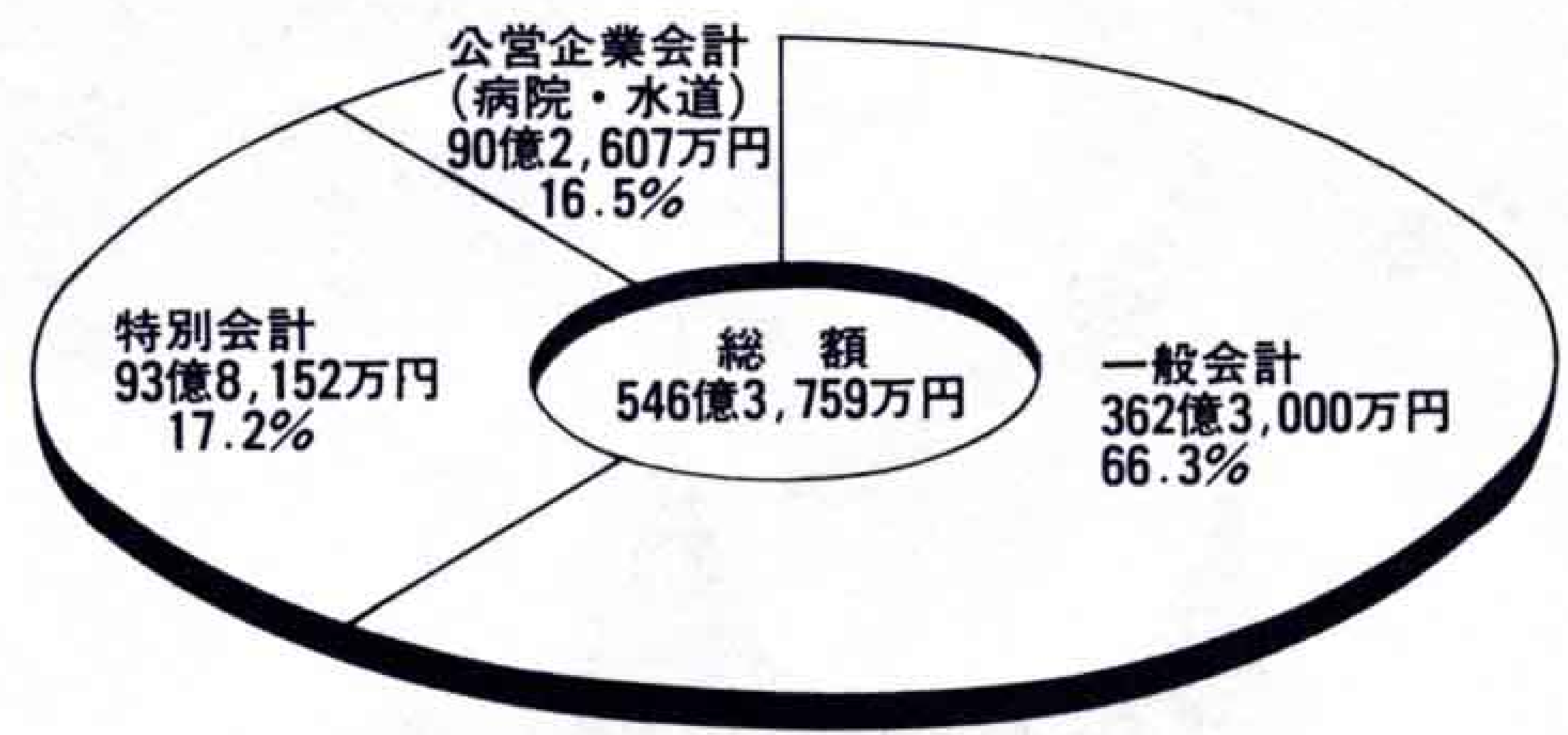
今年度は、新しい市民病院の建設に取り組むとともに、公共下水道（東部処理場の実施設計、富士処理区管渠の布設）、斎場の用地取得、義務教育施設の整備など、市民生活優先の諸事業をすすめます。

経費節減と人件費など抑制

一般会計の歳入面をみると、自主財源の約60%を占める市税収入額は、215億7,370万円、前年度対比で10.7%増と比較的安定した伸びを示しています。依存財源については、行政改革等、国庫補助金の削減、公共事業の抑制などにより、前年度対比で9.3%の減となりました。

一方、歳出面については、経常経費の節減合理化と人件費を中心とする、義務的経費を極力抑制しました。

昭和57年度 会計別当初予算額



昭和57年度一般会計予算

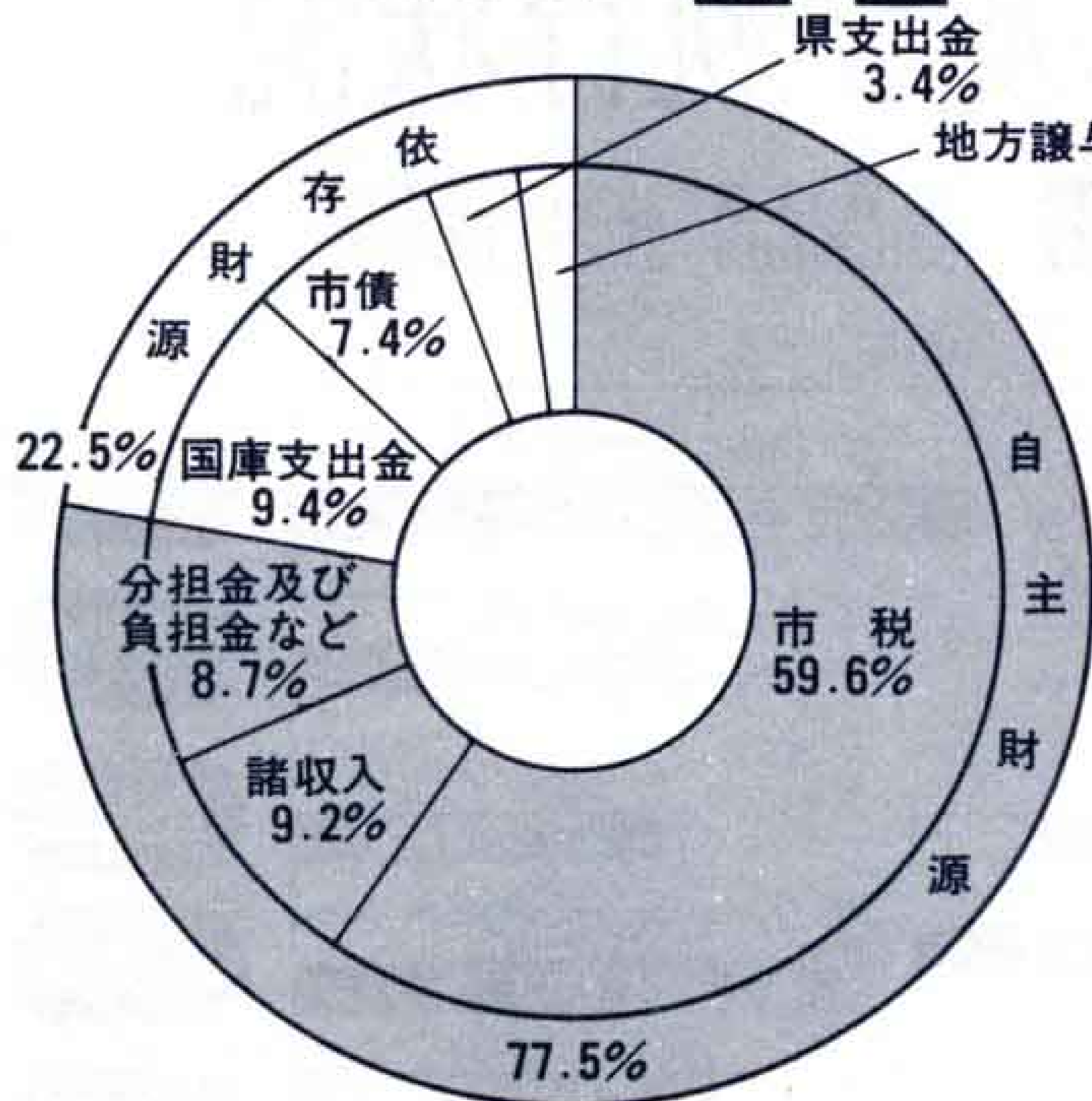
歳入

科目名	予算額	構成比
総額	362億3,000万円	100%
市税	215億7,370万円	59.6
地方譲与税	3億9,000万円	1.1
分担金及び負担金	12億8,132万円	3.5
使用料及び手数料	5億5,028万円	1.5
国庫金	34億908万円	9.4
県支出金	12億2,383万円	3.4
繰越金	12億円	3.3
諸収入	33億3,673万円	9.2
市債	26億7,710万円	7.4
その他	5億8,796万円	1.6

歳出

科目名	予算額	構成比
総額	362億3,000万円	100%
議会費	4億1,183万円	1.1
総務費	33億8,142万円	9.3
民生費	58億147万円	16.0
衛生費	35億4,291万円	9.8
労働費	12億9,310万円	3.6
農林水産業費	11億3,151万円	3.1
商工費	14億984万円	3.9
土木費	79億583万円	21.8
消防費	15億4,076万円	4.3
教育費	69億2,089万円	19.1
災害復旧費	1,833万円	0.1
公債費	27億9,598万円	7.7
その他	7,613万円	0.2

財源別 歳入



1人当たり10万2,473円負担



昭和57年度予算による市民の市税負担額は、1人あたり10万2,473円です。

その主なうちわけは、市民税4万6,112円、固定資産税3万6,187円、電気税1万5,78円、都市計画税5,348円、市たばこ消費税3,563円です。

一世帯あたりにすると、36万7,031円負担することになります。

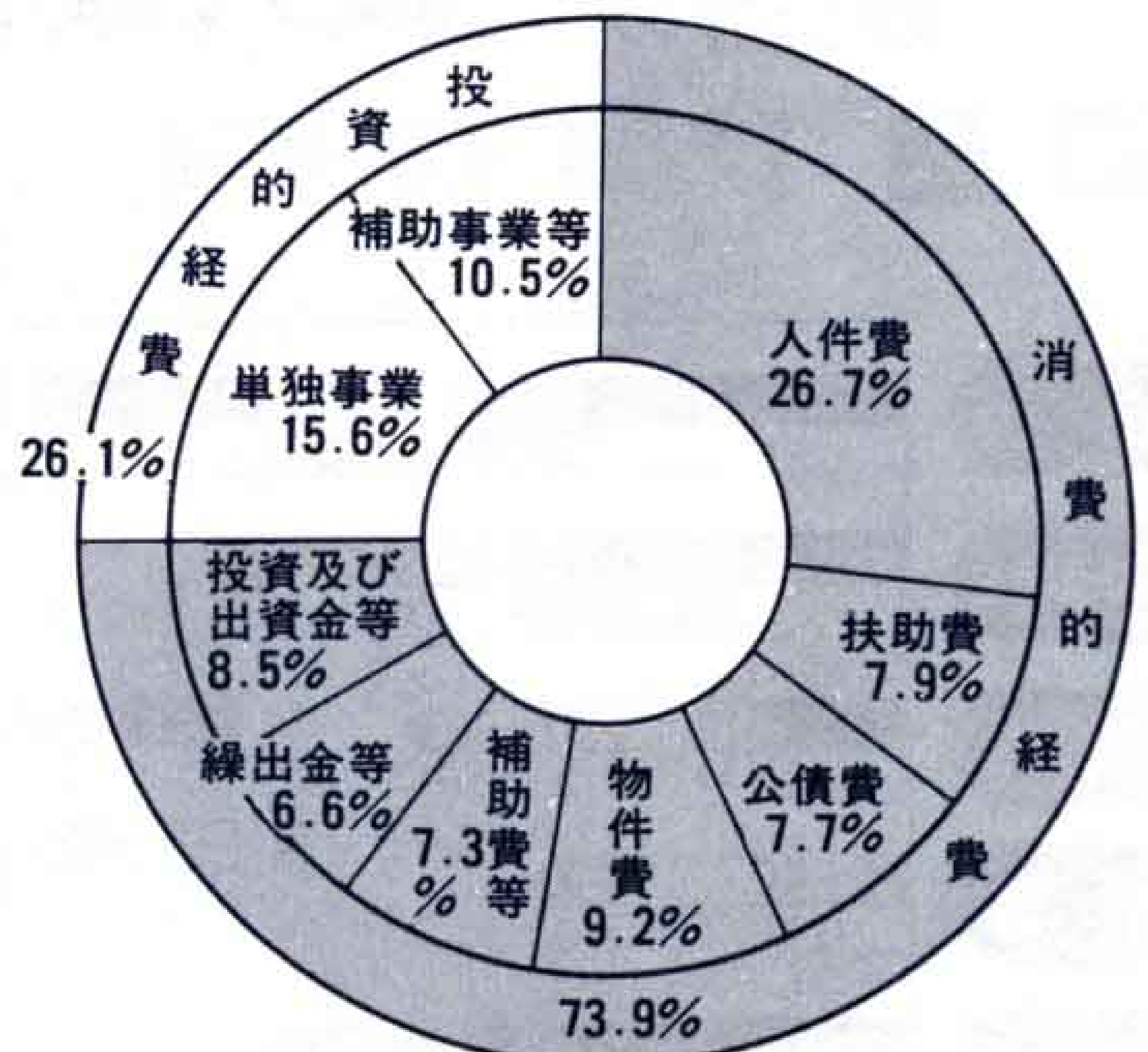
市債の状況

市の借金を市債といいます。道路や学校を造るには、巨額な費用が必要となり、市税や補助金だけでは賅えません。そこで、国や銀行からお金を借ります。現在の市債をみると次のとおりです。

- 市債総額 345億4,623万円
- 一般会計 184億7,029万円
- 特別会計 103億7,265万円
- 水道会計 51億5,464万円
- 病院会計 5億4,865万円

昭和57年3月31日現在

性質別 歳出



使うお金は 17万2,089円

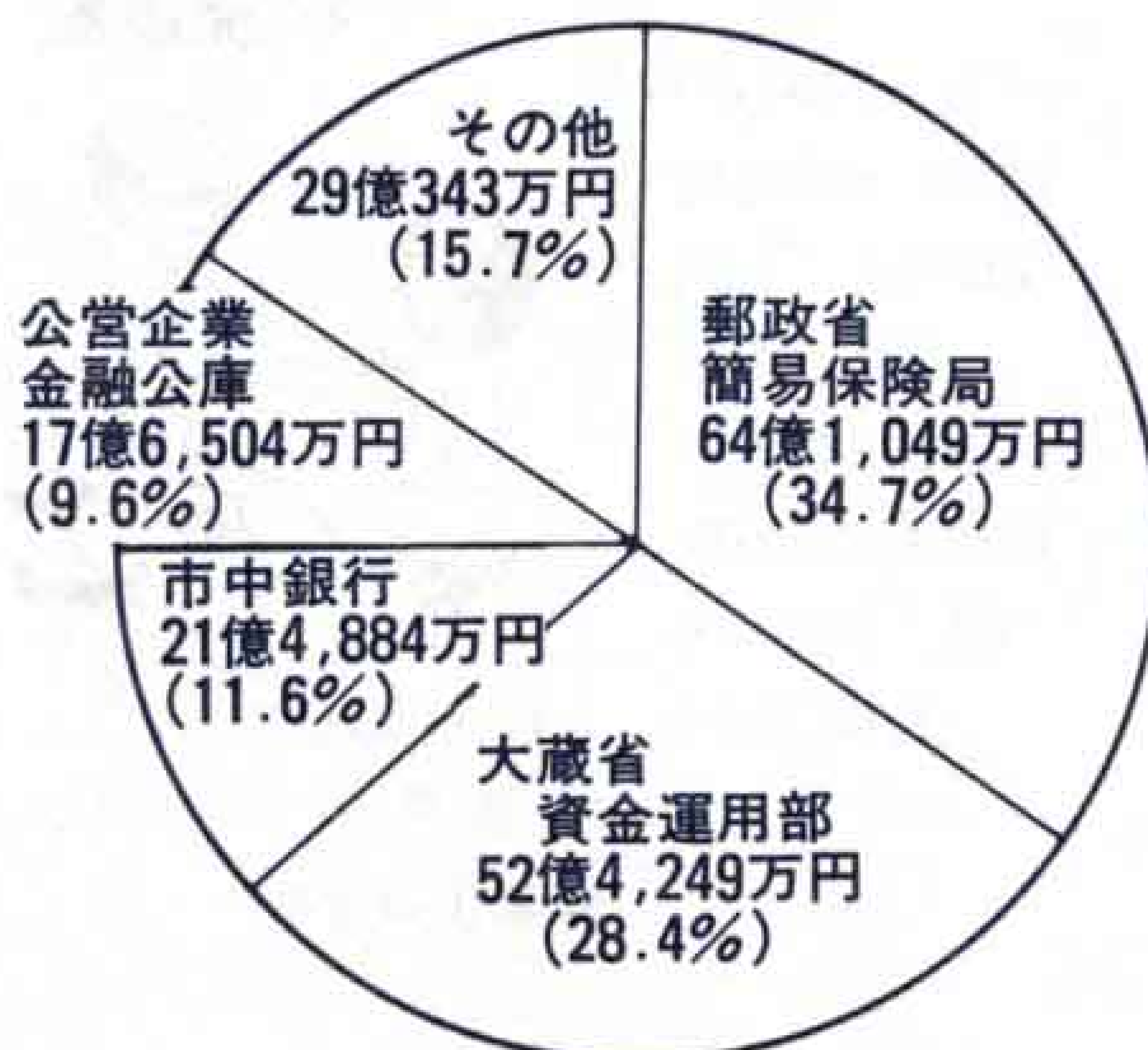


昭和57年度予算の歳出を1人あたりにすると、17万2,089円使うこととなります。

その主なうちわけは、土木費に3万7,552円、教育費に3万2,873円、民生費に2万7,556円、衛生費に1万6,828円です。

これを一世帯あたりにすると、61万6,376円になります。

一般会計債の状況



市有財産はこれだけです

有価証券 2,425万 4,000円	
土地 4,878万 3,437平方延	
建物 50万6,384 平方延	
立木 17万5,187 立方延	
車両 239台	

昭和57年3月31日現在

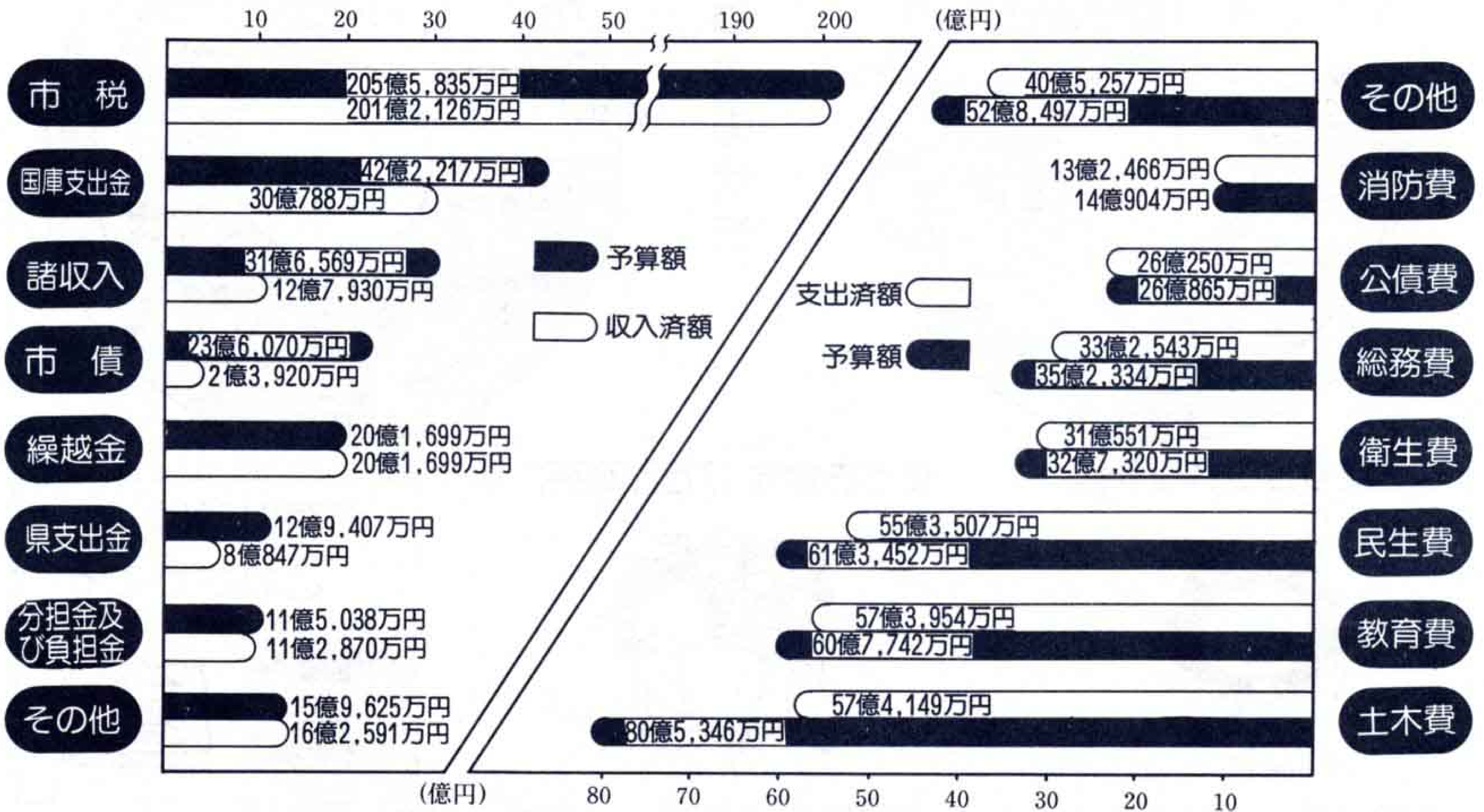
基金の現在高

16億1,172万円

基金の主なものは、国保支払準備基金、土地開発基金、総合社会文化会館基金です。 昭和57年3月31日現在

昭和56年度 一般会計の 歳入歳出予算及び執行状況

歳入 予算総額 363億6,460万円 収入済総額 302億2,771万円 **歳出** 予算総額 363億6,460万円 支出済総額 314億2,677万円



特別会計	依田原新田 区画整理会計	予算額 8億4,462万円 支出済額 6億8,372万円	駐車場会計	予算額 6,026万円 支出済額 4,071万円
国保会計	富士中部区画 整理会計	予算額 4億6,984万円 支出済額 4億3,912万円	公共用地 先行取得会計	予算額 8億9,931万円 支出済額 7億6,668万円
下水道会計	地方卸売 市場会計	予算額 5億6,403万円 支出済額 5億5,624万円	(財産管理等、特別会 計は省略しました。)	

昭和56年度 企業会計の決算状況

☆水道事業



- 収入合計 18億 710万円
- 営業収益 16億8,632万円
- 営業外収益 1億2,077万円
- 特別利益 1万円
- 支出合計 18億2,365万円
- 営業費用 14億9,025万円
- 営業外費用 3億3,340万円
- 純損失 1,655万円

総配水量 3,203万9,325立方メートル
1日平均 8万7,779立方メートル
1日1人平均 481ℓ

(昭和56年4月1日～昭和57年3月31日)

☆病院事業



- 収入合計 33億7,918万円
- 医業収益 28億4,713万円
- 医業外収益 5億3,205万円
- 支出合計 33億3,819万円
- 医業費用 32億6,621万円
- 医業外費用 7,198万円
- 純利益 4,099万円

入院患者延べ 9万6,503人 但し、一般会計からの補助金
外来患者 20万3,321人 1億9,580万円が営業外収益の
外来1日平均 684人 中に含まれています。

(昭和56年4月1日～昭和57年3月31日)